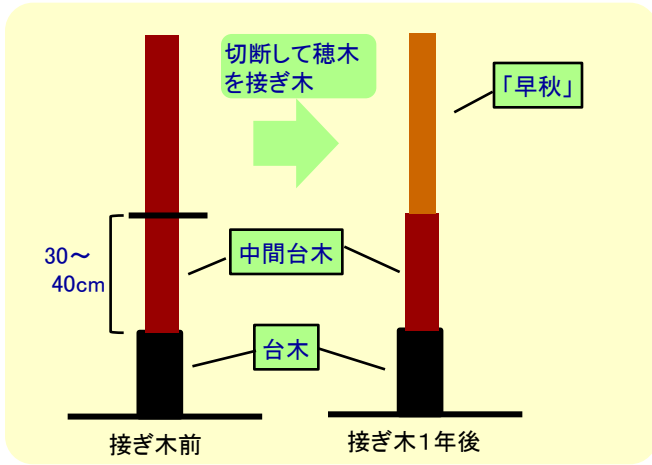
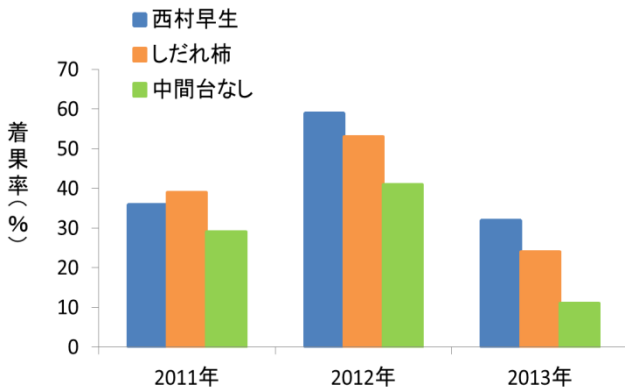
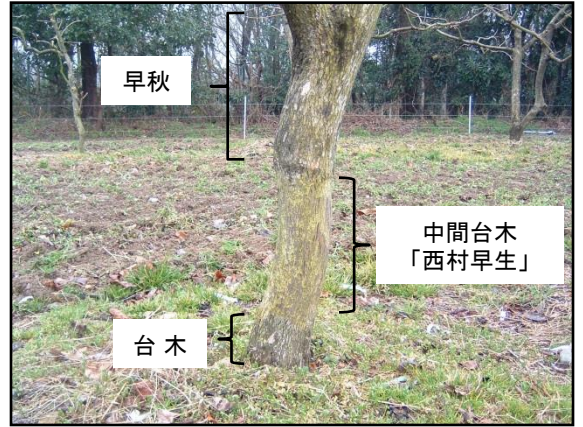


中間台木を利用したカキ「早秋」の生理落果の防止対策



中間台木を利用した苗木の作り方



中間台木による摘果前(7月中旬)の「早秋」の着果率



中間台木に「西村早生」を用いた12年生「早秋」(左写真)及び中間台木なし(右写真)の着果状況(2014年9月)

カキ「早秋」は9月下旬から収穫できる早生品種の一つで、県内での栽培が始まっています。「早秋」は良食味の完全甘柿ですが、7月までの生理落果が非常に多いため、実がつきにくく収量の確保が難しいという問題があります。これを解決するために、樹勢を抑制することにより着果安定が期待できる中間台木の利用を検討しました。

中間台木として「西村早生」及び「しだれ柿」を利用したところ、生理落果が減少し、着果率は、「西村早生」>「しだれ柿」>「中間台木なし」の順となりました。中間台木を利用した苗木の養成には、通常苗木より1年長い期間がかかりますが、経済年数の長いカキ栽培における利用価値は十分に高いと考えられます。(園芸研究部)